

九十九里地引き網発祥の地

紀伊・房総

くろいお物語

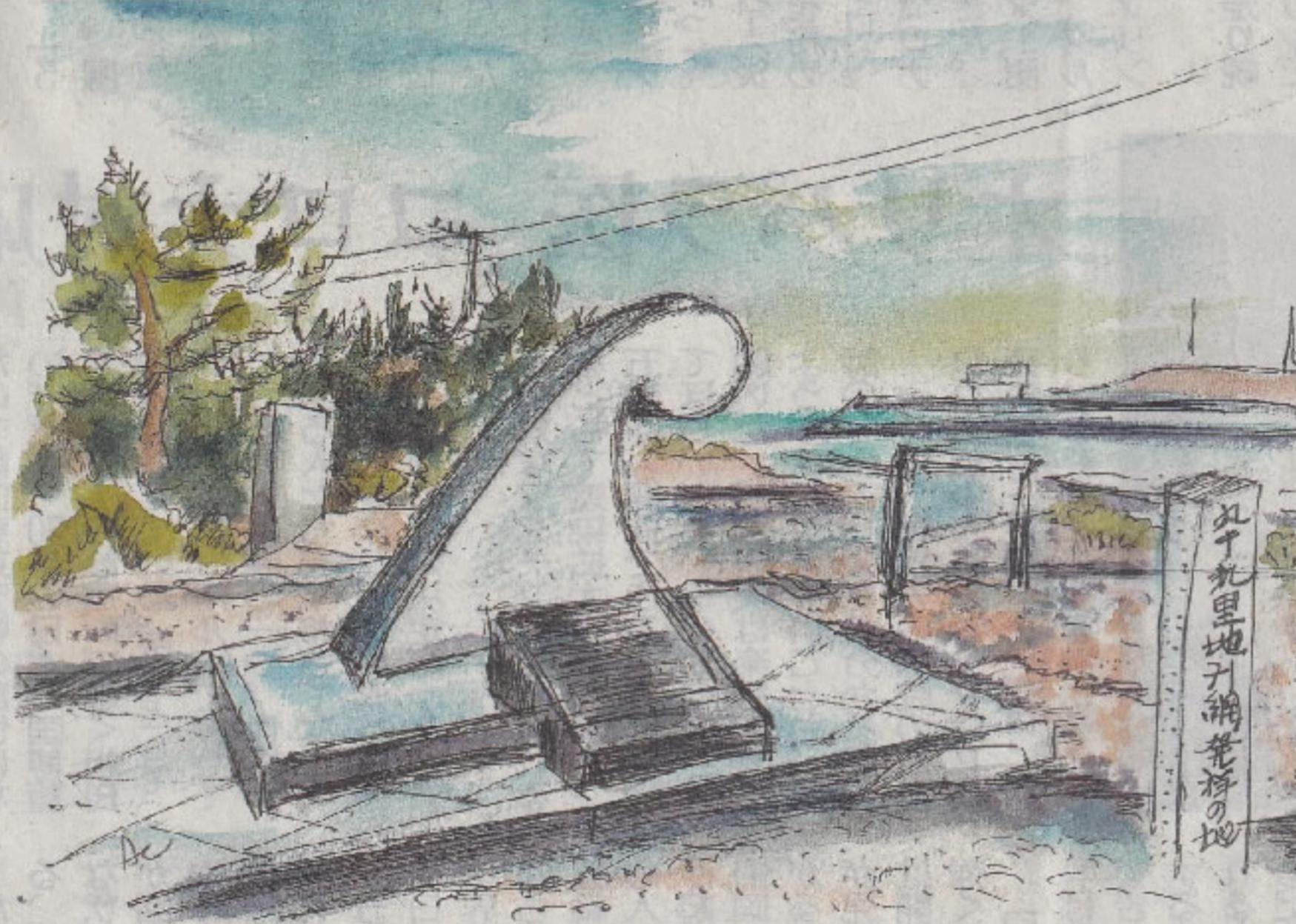
◆4◆

九十九里浜に面した「然公園入り口」に、「地
千葉県白子町の白子自引網の発祥の地」とい

部に銘文が刻まれてい
ました。要約して紹介

う記念碑があると聞
き、南白亜川河口にあ
る公園を訪ねました。
公園入り口の砂浜に、
黒潮の大波をかたどつ
たシンボルがあり、下

う記念碑があると聞



イワシ漁獲日本有数

た。江戸時代後期の稿本と推定される『江浦干鰯問屋仲買根元由来記』と、1883（明治16）年の稿本である『房総水産図誌』に記載されている話で、両史料では漂着時期に大きな差異（約300年）があるが、骨子は共通しているので史実と認め、記念の地とした

考案された、とのパラ
ルの説明では、袋網を
2隻の船で引いて魚群
を追い込み、海岸に運
ぶさまも図解されてい
ました。

重要な栄養源ですが、最近では必須脂肪酸を多く含むとして、生活習慣病予防など消費者の健康志向に沿った側面が強調されているようです。昼食をどうぞ資料館近くの片貝港辺を巡ると、「イワシ料理」を掲げたのぼりを立てる食堂が目白押しでした。次回はイワシづくしのランチメニューを紹介したいと願います。

しますと——
「九十九里浜は江戸時代、無双の地引き網漁場で、起源は一般的に室町時代とされる。紀州の人、西宮久助が難風のため南白亜浦に漂着し、剃金村の長嶋某（長嶋丹後）の家に寄寓し、手厚い看護を受けた。久助は謝意の印として、出生地の紀州・熊野浦で使用する地引き網の製法を教え

の「いわし資料館」を訪ねました。入り口には3000匹ものイワシが同じ方向にきらきらと回遊している水槽があり、見事なものでした。

開発されたのです。こうして九十九里浜のイワシ漁は大いに発展し、当たり年には年間82・3万俵ほどの水揚げがありました。

の「いわし資料館」を開発されたのです。こ
訪ねました。入り口には3000円ものイワシが同じ方向にきらきらと回遊している水槽があり、見事なものでした。

まず、「九十九里伝統の大地引き網のルツは紀州だった」というキャッチフレーズが目に留まりました。1620年ごろ九十九里らしい大地引き網漁があとで、九十九里浜一帯は日本有数の漁獲量を保ちながら、新しいイワシ文化を発信し続けてきました。イワシはたんぱく質やカルシウムを摂取するのに重

考案された、とのパネルの説明では、袋網を2隻の船で引いて魚群を追い込み、海岸に運ぶさまで図解されました。

戦国時代末の16世紀後半から、木綿による衣料革命が起こり、近畿や瀬戸内の農産地で、より栽培効果のある肥料が求められたことを前回述べましたが、その干鰯生産のため、関東各地の漁場が

重要な栄養源ですが、最近では必須脂肪酸を多く含むとして、生活習慣病予防など消費者の健康志向に沿った側面が強調されているようです。昼食をとろうと資料館近くの片貝港周辺を巡ると、「イワシ料理」を掲げたのぼりを立てる食堂が目白押しでした。次回はイワシづくしのランチメニューを紹介したいと願います。

漁獲日本有数